

や就労継続支援B型「就労支援 みんなのジョブセンター」、障がい児の学童クラブ「放課後等デイサービスすてっぷ」や、重度の障がいを持つ人の活動の場「生活介護 Ken Ken club」などがある。また、商業部門には天然温泉「久屋原温泉」や「みんなの畑レストラン」、「みんなのウェルネス」や「地産地働ラボ バルバル」などが入る（後述）。

2.2 運営法人について

■大誠会グループについて

SONATARUE を運営する大誠会グループは、「地域に必要とされる大誠会となろう」という思想のもと昭和63年に大誠会内田病院を設立し、以後、住民の身近な存在として特別養護老人ホームやデイサービス等様々な社会資源を展開している。「地域といっしょに。あなたのために。」をグループの理念に掲げ、地域における単身高齢者の増加や介護力の低下などの課題に対して「まちづくり、ひとづくり、しごとづくり」に取り組んでいる。

■理念の樹（図3）

大誠会グループは「地域といっしょに。あなたのために。」を理念に掲げ、その実践内容及び、今後創出しようと試みている活動を「理念の樹」として可視化して

表1 施設概要

施設名	SONATARUE(ソナタリュウ)	
所在地	群馬県沼田市久屋原町	施設写真
運営	社会福祉法人久仁会	
開設年月	R2.11	
施設種別	多機能型事業所	
構造規模	鉄骨造2棟、木造2棟 2階建て	
運営事業	障がい者 GH・放課後等デイ・生活介護 就労支援 B 型・商業部門(カフェ・温泉・ レストラン・ウェルネス ect)	
利用者概要	各定員数 10名・10名・20名・14名 わんぱくガーデン利用のこども 商業部門利用の地域住民	
敷地図		
平面図		



図2 全体図（参考文献2）より抜粋）

いる。共に育む、共に創り出す、共に癒すの三つの関係性により、複合型や障がいを持つ人との協働など、多くの目標を実現している。

■施設名の由来

「SONATARUE」は、フランス語で「SONATA＝協奏曲」と「RUE＝街路」が組み合わされたものであり、日本語では「そなた流（あなた流）」の意味を持つ。施設の利用者一人ひとりが思い通りの時間を過ごせるようにという想いが込められている。

3. 開設経緯

3.1 開設の背景

「SONATARUE」が位置する群馬県沼田市は、県内でも特に人口減少、少子高齢化が加速している地域であり、人口に関しては市設立以降減少し続け、現在は県内12市の中で最も少ない人数となっている。また、認知症患者や高齢独居世帯の増加、人口減少による地元農家の後継者不足や少子高齢化による介護力不足など、解決すべき地域課題も多数抱えている。更に、地域における医療・福祉施設の数も十分ではなく、障がいを持つ人の働く就労の場や使うことのできるサービス資源も限られていることから、地域に住む人が地元から離れてしまうことも少なくなかった。

3.2 開設の経緯

医療法人大誠会グループが掲げているグループの理念、「地域といっしょに。あなたのために。」から、沼田市の地域特性を背景に、「この地域を医療と福祉のベースキャンプに」を目標とし、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられる地域をつくるために、地域に足りない医療や介護・福祉の機能を提供し、障がいや病気の有無、年齢も関係なく交流できる居場所を地域につくりたいという思いで SONATARUE を開設した（表2）。



写真1 外観写真

4. 施設・建物について

■全体の構成（写真1）

建物は鉄骨造2棟、木造2棟の計4棟で構成され、その4棟に囲われた中庭は地域に不足しているこどもたちの遊び場となっている。中庭側と道路側に下屋を設け、地域の方や職員の方が雪や雨の日でも安心して歩くことができるスペースを確保している³⁾。

■久屋原温泉（川の湯、山の湯、そなたの湯）

久屋原温泉には檜風呂の「山の湯」と岩風呂の「川の湯」があり、週替わりで男湯と女湯が入れ替わる（写真2）。これらの他にも、貸し切り風呂である「そなたの湯」があり、受付で申し込みを済ませることで施設

表2 事業所展開の沿革⁴⁾

■事業所展開の沿革	
1988年	医療法人大誠会内田病院開設
1998年	「ひだまり保育園」開園
2004年	「ゆうハイムくやはら」開設
2011年	田中理事長就任 「この地域を医療と福祉のベースキャンプ」へ 初期理念策定 「地域のために。あなたのために。」 「ケアとキュアの一体化を促進！」 「地域と共に生きる！」
2015年	大誠会グループ理念策定
2016年	「みんなのはたけ」から「みんなの農業」へ転換
2017年	児童発達支援事業「ハートグリーン」開設。 障害児の支援を始める
2018年	「みんなのジョブセンター」開設
2019年	放課後デイサービス「すてっぷ」開設 「みんなのりんご畑」開園
2020年	「SONATARUE」開設



図3 理念の樹（参考文献4）より抜粋）

の利用者だけでなく誰でも気軽に利用することができる（写真3）。「そなたの湯」には、乗降できる椅子などバリアフリーに配慮した内装が施されており、障がいのある方でも安心して温泉を利用することが可能である。一日の温泉の平均利用人数は合わせて通常100人、最低でも50人前後であり、温泉に隣接するロッカールームは同時に32人まで利用できる計画である。ただ同時にこれだけの人数が利用することはないため、ロッカーの鍵の貸し出し時に、利用者が互いに距離を取れるよう1つ置きで貸すなどの配慮をしている。また、障がいなどにより棚に手の届かない方は低めの位置にある棚、手の届く方は中～高位置にある棚を使用してもらうよう工夫している。

■足湯（写真4）

母体病院側からアプローチする施設の入口には、交差点に面するように足湯が設けられており、誰でも気軽に使用できる。寄り付きを誘う、施設のシンボルでもある。調査時にも地域住民が利用していた。

■みんなの畑レストラン

みんなの畑レストランでは、地元で育てた野菜を中心に料理を提供しており、地産地消の取り組みを促進している（写真5）。また、沼田産黒豚を提供できる県

内3店舗目の店であり、地元の食材の美味しさをアピールする場としても活躍している。開放的な空間となっており、テーブル席からは調理の様子が見えるような造り



写真5 みんなの畑レストランの様子

地元野菜をつかった華やかな昼食を提供している。見学时、平日昼間の店内は、利用客で賑わっていた。



写真6 みんなのウェルネス Go Health 内観

高齢者の中には、「リハビリ」に抵抗のある人がいるが、「ジムに行って体を鍛えよう」といった声掛けによって、体を動かすことへのハードルが下がり、積極的な利用に繋がると言う。施設内は、白&茶色&アイボリーで統一されている。これらはSONATARUEが日常で安心できる色合いとして考えており、SONATARUE カラーとして定めている。



写真2 久屋原温泉



写真3 そなたの湯



写真4 足湯

2面が公道に面しており、地域住民がふらりと立ち寄りやすい場所である。見学の平日昼間も、集団で利用している姿がみられた。



写真7 レッスンスケジュールと活動内容

利用者それぞれの活動内容に合わせて様々なレッスンを開いている。部屋の中央にある大きな鏡は可動式で、裏にはテレビが収納されており、外部から訪問する先生や仕事後の職員の居場所にもなる。



になっている。調理する人の顔が見えることで、利用客は安心して食事ができる。

■みんなのウェルネス Go Health（写真6）

施設内に設えられているジムには高齢者だけでなく、放課後等デイサービスにこどもを預けた母親や、職員が昼休みを利用して軽い運動やヨガを行うこともある。ジム内には複数の運動器具が設置されており、高齢者でも比較的簡単に使用できものとなっているため、リハビリや軽い運動を行うのと同時に達成感を得ることができる。

建築的には、木材を使用したデザインとすることで木のぬくもりを感じられるようにし、天井を高くして開口部を多く設けることで、解放感が得られるよう工夫をしている。また、大きな開口にはカーテンが設けられていないため、内部の活動が外部の人に見え、外にいる人に良い刺激を与えることができる。部屋の中央にある大きな鏡の裏には、テレビが収納されており、外部から訪問する先生や仕事後の職員の居場所ともなる。

また、プログラムとして、利用者それぞれの活動内容に合わせて様々なレッスンを開いている（写真7）。各レッスンには幼児から高齢者まで幅広い世代の利用

者がおり、ヨガやストレッチ、さらにフレイル予防に資するプログラムを組んでいる。単身高齢者の数も増えており、同時に訪問介護、在宅介護の需要が高まっているが、自宅内での週一程度のリハビリでは効果がないと推測される。そのため、施設に入所することで自然とリハビリの頻度も増え、高齢者の孤立予防が期待できる。



写真8 地産地働ラボ バルバル

昼はカフェ、夜はバーとして、住民の憩いの場となっている（写真上）。計量が得意という特性を生かし、就労支援事業で働くU氏がつくるパンナコッタは、「Uさんがつくったパンナコッタ」と命名され、人気商品になっている。店内には本が設えられ、自由に本を読める（写真下左）。みんなの畑レストランとバルバルで提供しているナプキンやコップには、SONATARUEのロゴマークが印字されている（写真下右）。

表3 障がい部門4事業の概要²⁾

施設名	生活介護 KenKenclub	施設名	放課後等デイサービス すてっぷ
対象年齢	18歳～64歳	対象年齢	原則中学生～高校生
区分	原則障害区分3以上 (50歳以上は区分2以上)	区分	各障がい児
対象	知的、身体、精神、発達	対象	知的、身体、精神、発達
定員	20名	定員	10名
施設名	就労支援 みんなのジョブセンター	施設名	グループホーム Viva Vivo
対象年齢	18歳以上	対象年齢	GH18歳 ショート15歳 以上
区分	市町村の認可者	区分	区分取得は必要だが、制限なし
対象	知的、身体、精神、発達	対象	知的、身体、精神、発達
定員	B型14名 移行6名	定員	GH10名 ショート6名



写真9 わんぱくガーデン

放課後等デイサービスを利用するこどもを含む、地域のこどもが遊びに来る。中には、内田病院に来院した利用者のこどもが、親からひとりで離れて、この中庭に来てしまったというエピソードがあった。ここから500m圏内にある「いきいきみらいの森」に通うこどもが、保育園の帰りに遊びに来て、放課後等デイの利用者の子らと遊ぶ姿もみられると言う。



■地産地働ラボバルバル（写真8）

地産地働ラボバルバルは、昼はママカフェとして、夜は酒場として運営する直営の店舗。地域で採れた野菜や果物の販売だけでなく、地域の特産品・商品（例：道の駅のビール、りんごジュースなど）を仕入れ、販売を行っている。カフェのメニューはバラエティー豊かなものとなっており、豊富なメニューから自ら選択する行動を促す。

■わんぱくガーデン（写真9）

施設内の中庭にあたる中央部分には、各種遊具を備えたアスレチック公園が設けられている。中庭は、昔ながらの井戸が再現され、井戸からは衛生面で安全な水道水が流れる。公園内には砂場も設けられており、近年衛生面を中心とした問題により公園の砂場が減少傾向にある中で、こどもが五感を使って遊べるように、砂場を身近なものとし、さらに砂場のすぐ隣に手を洗うことのできる水道を設けることで衛生面にも配慮している。アスレチック公園には学校の放課後に立ち寄るこどもや放課後等デイサービスに預けられた児童、地域に住む子育て世代のこどもなど日時にばらつきがあるものの多くの利用者がいる。一方で、施設の隣接する道路は車どおりが多いため、こどもが遊ぶ際には注意が必要である。

■福祉部門（障がい部門4事業）

各施設の詳細を表3に示す。「放課後等デイサービス すてっぷ」は近隣の特別支援学校に通う生徒の放課後の居場所としてだけでなく、同じく施設内にある「就労支援 みんなのジョブセンター」と連携を取ることで、就労に結びつくための社会勉強と体験ができる場としても利用することができ、学校と就労支援事業が連携し情報を共有することで地域一体となって利用者の支援を行うことが可能である。

5. 地域や他施設との連携について

大誠会グループにはSONATARUEを監修している内田病院を始めとして様々な施設が加入しており、今後高齢化に伴い増加すると見込まれている地域の認知症患者・要介護者のケアを行うため障がい者施設や高齢者施設、行政や制度の垣根を越えた、地域間での連携を進めている。

5.1 大誠会グループ関連事業

■内田病院（写真10）

地域の医療・福祉・介護の拠点として高齢者や障が

いを持つ人の生活の拠り所となるようグループを導く場となっている。また、地域に点在する医療・福祉事業と連携を取り地域コミュニティの形成を図っている。

■いきいき未来の森

保育園と学童クラブ、共生型通所施設と放課後デイサービスの複合施設。この地域は多世代居住者が多かったが、人口減に伴い、理事長の「孤食」への問題意識が高まった。この「孤食を避けたい」という思いから、こども×高齢者の共生型第1号として開設に至った。

■リビングハウスみんなの家

理事長が、日常的に地域の困り事や相談事に応じていた中で、グループの事業として、住民の居場所づくりを含む地域活動の拠点が開設された。現在は、グループの事業から独立したNPO法人が運営している。

■住宅型有料老人ホーム ゆうハイム・くやはら

施設の名前である「ゆうハイム」の「ゆう」には、優・友・遊・悠など、様々な意味が込められている。アートセラピーや音楽療法などを用いることで、認知機能の向上や心と体のケアを行っている。

■特別養護老人ホーム くやはら

この地域は、多世代居住者が多かったが、人口減に伴い、「孤食」に対しての課題意識があった。認知症を持つ患者を中心に、高齢者が少人数で共同生活を行っている。入居者それぞれの生活スタイルを尊重しつつ、自立した生活を送れるようサポートしている。

■いきいきメディカルマイホーム

いきいきメディカルマイホームはサービス付き高齢者向け住宅であり、充実したサービスで快適な生活を過ごすことができる。内田病院と直結しており、医療・リハビリのサポートも充実している。また、各階には共有スペースとしてキッチン、リビング、ダイニングが設けられており、利用者間での交流もできる場となっている。



写真10 内田病院 外観

■グループホーム ゆうゆう・うちだ

認知症患者の悩みや相談事を良く理解した専門スタッフの下で、症状の緩和や改善を目指す地域密着型・認知症対応型共同生活介護施設である。

■介護老人保健施設 大誠苑

入所者一人ひとりの個性を尊重し、身体的なリハビリが必要な方や認知症ケアが必要な人など、介護の必要度合いに応じてそれぞれの介護に必要な場を用意している。

5.2 地域との連携

■みんなのりんご園

先述したように、SONATARUEのある群馬県沼田市久屋原町は山間部に位置することから人口が少なく地元を離れる人も多い。そのため、地元農家の継承先が見つかりにくく、施設近隣のりんご園もその問題に直面していた。そこで、SONATARUE はりんご園を「みんなのりんご園」と称して継承し、りんごの栽培・収穫・販売の一連の流れを施設の利用者が行うことで、高齢者のリハビリ、および障がいを持つ人の就労支援事業の

活動の場として活用している。

■分散配置されたベンチ（写真 11）

大誠会グループエリア内に、地域の人や来客者が休めるベンチを地域の方々の理解を得て分散配置している（写真 12）。これは、同グループ内のスタッフが地域活動を行う目的で集まったサークルでの活動の一環として、つくられた。このサークルに所属するスタッフは休日などを利用し、地域住民も巻き込んで作成した。他にもそれぞれの興味関心によって選べるサークルがあるが、グループにおいて地域活動を行う様子からは、グループ内での同僚性の向上を高める仕掛けがあること、



写真 11 エリアマップ内に分散配置されたベンチ
久仁会に働く職員（看護師や介護士など）の中で、地域活動を積極的に行うサークルがあり、そのメンバーらが手作りしたもの。

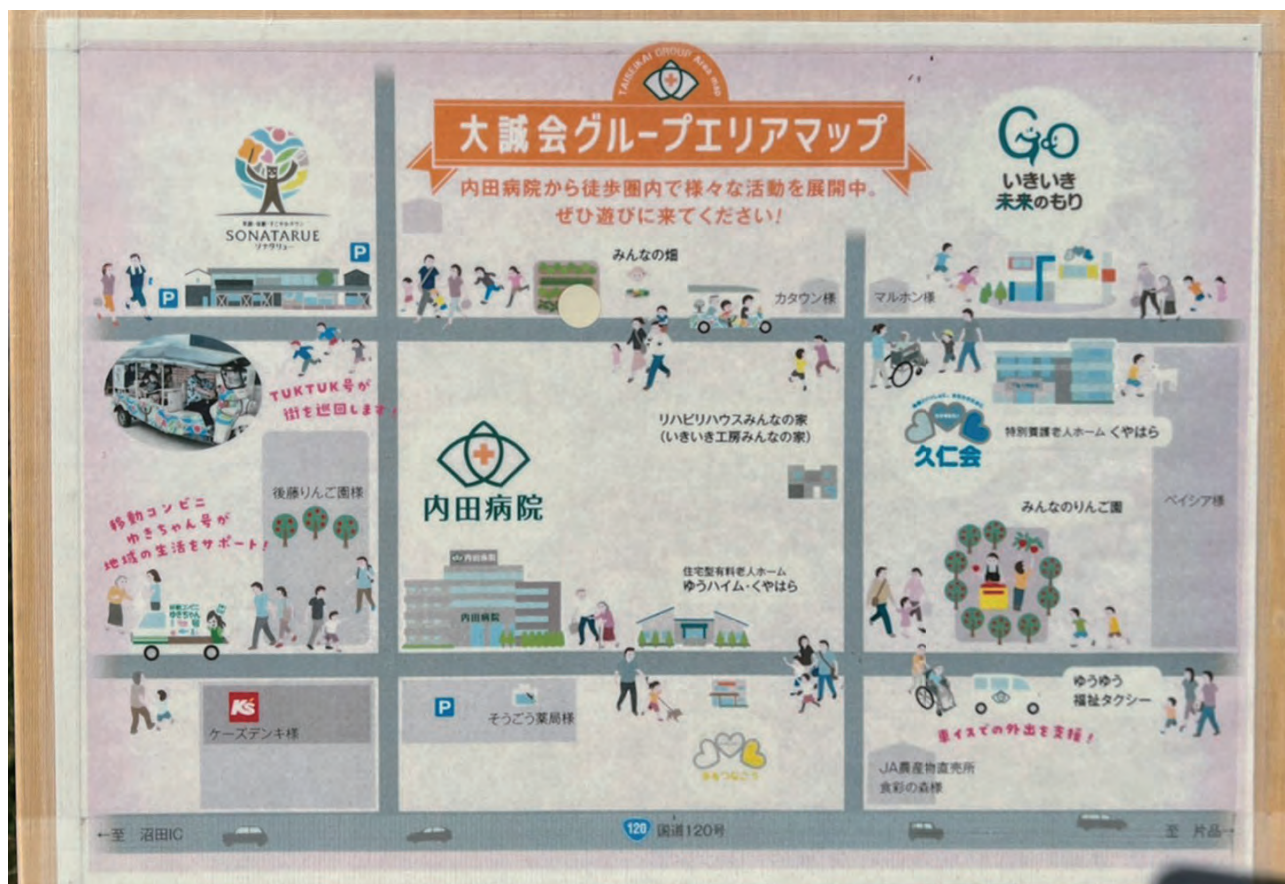


写真 12 大誠会グループエリアマップ

半径 500- 1 km圏内に、大誠会・久仁会の全ての施設が集約している。土日と住民の希望があった日には、トゥクトゥクで住民をスーパーや病院に送迎するサービスを提供している。エリアマップがそれぞれの施設に設置された掲示板などに貼られており、それぞれの施設を目的に訪れた人や散歩をしている人もエリア全体での活動を知り、身近に感じられるアピールとなっている。

それを地域の福祉につなげていくなど複合的な効果が期待できる活動の一例として注目することができる。

6. 施設計画の観点からの考察及びまとめ

障がい者福祉施設と商業施設が一体となった複合施設である SONATARUE は、様々な属性の人が利用する空間であり、ナチュラルハプニング^{注1)} が生まれやすい空間になっている。就労支援の利用者との関わり方として、具体的な内部空間の仕掛けとその効果を以下にまとめる。

■中庭を中心とした建物の配置と、建物内の中庭側のガラス窓：建物内部は、どこに滞在していても、中庭であそぶ子どもの声がきこえるなど他の利用者の様子が感じ取れる環境であり、音や視線によるささやかな関わりを誘発している。また、全ての利用者に中庭をみる行為を促すような空間構成と設えは、“利用者同士が時間と場所を共有している”という感覚の強化に繋がっていると考えられる。

■道路に面したカフェと足湯の設置：SONATARUE は、主に障がいを持つ人の支援の場である中で、利用ハードルの低いカフェや足湯を、最も人通りが多い道路に面した位置に配置している。これは、障がいを持つ人、子ども、高齢者、子どもを持つ親など地域にいるあらゆる属性の住民が、その属性に関わらず自然と日常利用できるような効果に繋がっていると考えられる。

こうした仕掛けによって、会話などの利用者同士の深い交流から、音や視線による互いの存在の認知や居合わせといった、様々な関わり合いがグラデーションを成している様子が見出された。

立地的特徴として、SONATARUE が位置する半径 500m・徒歩 5 分圏内は、大誠会がグループで運営する 6 施設と共に、畑やりんご園、戸建ての民家が間隔を開けて点在している。建物の密度が低いため、医療・福祉施設が集約した「コロニー」のような印象ではなく、医療・福祉に資する場所や小休憩の場所（ベンチ）、子どもの遊び場など、住民が日常利用する居場所が緩やかに点在した「エリアー帯」という印象を抱く。

人口 5 万人、高齢化率 30%⁵⁾ の中山間地域の特性を生かし、エリアで運用することで、エリア内に位置する保育園いきいき未来の森から SONATARUE の放課後等デイサービスすてっぶを経て、SONATARUE での就労支援事業みんなのジョブセンター、また、エリア内の内田病院の受診から SONATARUE での生活介護 kenkenclub

といった、切れ目のない支援に繋がっている。

謝辞

本研究にご協力いただきました皆様に、篤く御礼申し上げます。なお、本研究は、科学研究費補助金(基盤 B)「ケア中心型社会の基盤となる持続的な「共在の場」とケアの関係構築に関する包括的研究(研究代表者：山田あすか)」の一環として行われました。

[注釈]

1) インタビュー時に、SONATARUE 副管理者の小林若葉氏が、日常で起こる、様々な人との「自然発生的な、思いがけない出来事や異図せず起こる交流」を指して「ナチュラル・ハプニング」と表現しており、本稿でもその意で用いている。

[参考文献]

- 1) Google Maps < https://www.google.co.jp/maps/place/%E3%82%BD%E3%83%8A%E3%82%BF%E3%83%AA%E3%83%A5%E3%83%BC/@36.6653302,139.1005227,2691m/data=!3m1!1e3!4m6!3m5!1s0x601e435c8291fea3:0x92f791035a1847d3!8m2!3d36.6665569!4d139.1032368!16s%2Fg%2F11m_jtbnmf > 2022.11.25 参照
- 2) SONATARUE (ソナタリュー) パンフレット 2022.11.11 参照
- 3) SONATARUE(ソナタリュー) _ 株式会社 五井建築研究 <<https://www.goi.co.jp/building/sonatarue/>> 2022.11.25 参照
- 4) SONATARUE _ 大誠会グループ内田病院 <<https://taiseikai-group.com/facebook/sonatarue-2/>> 2022.11.25 参照
- 5) 沼田市公式ホームページ <<https://www.city.numata.gunma.jp/shisei/profile/toukei/1009123.html>> 2023.4.25 参照